

本市は、古くからモノづくりを支えてきており、産業基盤の整備としては、本市南西部に市内最大級の岩倉川井野寄地区工業用地を造成し、都市計画マスタープランにおいても、産業系拡大検討ゾーンを位置づけ、新たな産業展開の受け皿となり、産業機能の立地誘導を図っています。

そのような中、産業を支えるための広域交通ネットワークの整備は、本市にとって喫緊の課題であり、名神高速道路の『尾張一宮PA』にスマートICを設置することは、企業や住民の利便性が向上するだけでなく、医療活動支援や防災機能などを含めた地域拠点間のアクセス機能が強化され、本市を含めた尾張北西部の発展にも大きく寄与します。

本市は、これまで一宮市と連携してスマートIC事業を推進しており、このたび国が調査を実施する『準備段階調査』に着手いただけることに対して、非常に感謝いたします。

今後も一宮市とともに、まちづくりの基盤整備を行っていくとともに関係機関のお力添えをいただきながら、国に早期事業化をしていただけるよう、取り組んでまいります。

岩倉市長 久保田 桂朗